



巻頭言

セラピスト・フォーカシング紹介

九州大学
吉良 安之



心理療法（ないしカウンセリング）に従事するなかで、私たちセラピストはさまざまな感情を体験しています。クライアントが感じていることを追体験して、辛さや悲しみ、寂しさや切なさを体験することもあれば、喜びやほっとする気持ちを感じることもあります。セラピストはクライアントと過ごす時間、心の扉を開いています。そのため必然的に、クライアントの感じていることが自分の内側に流れ込んでいきます。

セラピストはそれを手掛かりにしてクライアントを理解し、査定と援助を考えていくわけですが、流れ込んでくるものの強さや性質によっては、それがセラピストのこころの芯を揺さぶる場合もあります。セラピストがそれに圧倒されて、援助者として十分に機能できなくなるような事態もありえます。

したがって、私たちは自分自身に生じてくるさまざまな感情を鎮めて援助行動につなぐための、心の機能を身につける必要があるのではないのでしょうか。感情を否認したり排除したりするのではなく、感情のインパクトはそのまま保ちながら、なおかつ、感じる事が自分の心を損なわずに、どのような応答がクライアントへの援助につながるのかを考えていけるような機能です。

フォーカシングは、自分の内面に暗に感じられている感覚に静かに注意を向け、それを吟味することで、それが内包している自分にとっての意味を明らかにしていく心の作業です。私は若い頃にフォーカシング体験に熱中した時期があったのですが、その後、これはセラピストにとって大切な心の作業なのではないかと考えるようになりました。フォーカシングは上記のようなセラピスト自身の内的機能を働かせ、養う機会になると考えたからです。そして、それをセラピスト・フォーカシングと名づけて実践するようになりました。

この方法は、セラピストがある事例で行き詰まりを感じているときに、自分の心を整理するために役立つと考えられます。また、フォーカシングの感じ方を繰り返し経験することで、自分の感情に圧倒されずに穏やかにやりとりする心の機能を身につけることにもなります。一言で言えば、「自身の心を整える作業」です。多くのセラピストの方々にフォーカシングを経験してもらいたいと思っています。

目次

2019年度事業計画	-2
2018年度事業報告	-3
研修会報告 新事業のお知らせ	-4
書籍のご紹介	-5

2019年度 事業計画

臨床心理サービス事業

カウンセリングルーム「こだち」では、臨床心理士の資格を持つ相談員が心理面接を担当しています。

家庭学習支援事業 では、不登校や発達障害を抱える児童生徒を対象として、主に臨床心理学を専攻している大学生・大学院生の学習支援員の派遣を行っています。

家庭学習支援は「①家庭学習支援員の派遣」「②保護者相談」「③家庭学習支援員の資質向上(研修)」の3つを1セットと定めています。

思春期居場所支援事業(ここりーと) では、不登校児童生徒やひきこもりの青少年を対象に、金曜日の13時～16時にこだちのプレイルームを使ってフリースペース活動を行っています。スタッフ数名とゲームや折り紙、おしゃべりをしたり、ゆったりとした時間を過ごしています。また、活動前後にミーティングを行い、関わり方などの話し合いをします。

協働事業

地域のニーズに応じて、カウンセラー・講師派遣事業を継続的に実施してきました。講師派遣に関しては、好評のものも多く、引き続き依頼が届いている機関も多くあります。

今年度も引き続き、大学生・社会人等を対象としたキャリア支援講義、ストレスケア講義の講師派遣を行っています。



研修事業

2019年度も、引き続き多くの研修会を企画しています。参加申し込みはこだちからのチラシやホームページにも掲載しておりますので、ご参照ください。皆様のご参加をお待ちしております。

<2019年6月～11月実施研修会・講演会のご紹介>

心理職なら知っておきたい基礎知識ABC

終了

【第1回】心理職の倫理・職責と法律

講師：市丸 健太郎 先生（不二法律事務所）
金子 周平 先生（九州大学大学院）

日時：2019年6月15日(土)
定員：70名

【第2回】心理職に知っておいてほしい

こころとからだの関連

講師：黒木 俊秀 先生（九州大学大学院）

日時：2019年6月29日(土)
定員：70名

こだち教育領域研修会

学校での発達障害児童生徒の理解と支援を体験的に学ぶ
～教員とのコンサルテーション・保護者対応

終了

講師：増田 健太郎 先生（九州大学大学院）
日時：2019年6月23日(日)
定員：70名

WISC・WAIS研修会

講師：木谷 秀勝 先生（山口大学教育学部）

受付終了

【第1回】基礎編

日時：2019年7月27日(土)
定員：50名

【第2回】実践編

日時：2019年12月8日(日)
定員：50名

事例で学ぶテストバッテリー

講師：高橋 靖恵 先生（京都大学大学院）

【第1回】

日時：2019年9月1日(日)
定員：30名

【第2回】

日時：2019年11月10日(日)
定員：30名

セラピストフォーカシングワークショップ

講師：吉良 安之 先生（九州大学）

日時：2019年11月23日(土・祝)～24日(日)
定員：15名程度

2018年度 事業報告

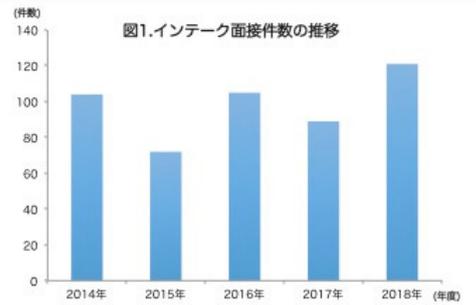
臨床心理サービス事業

こだちでは、臨床心理士の資格を持った相談員の心理面接事業が大きな柱となっています。2018年度は121件のインテーク面接をし、総面接回数は1360回でした。総面接回数は減少の傾向にあり、これは面接料金の改定が行われたことの影響が少なからずあることが考えられますが、その一方でインテーク面接の増加も見られ、引き続き心理面接の場のニーズに応えるべく、事業を行ってまいります。

相談内容は、例年同様、子どもや保護者の相談(不登校、発達の相談、親子関係、友人関係等)や成人の相談(家族関係、対人面での悩み、会社の人間関係、うつ等)と、多岐にわたる相談内容があり、医療機関と連携しながら面接を実施しているものも多くあります。また、面接の中で必要に応じて検査の実施等も行っています。また、福岡市内や県内はもとより、県外からも来談いただいています。

また、家庭学習支援事業にも例年通り多くの申し込みをいただき、派遣回数は292回となりました。

思春期居場所支援事業(ここりーと)も九州大学の大学院生がスタッフとなり、安定した活動を行うほか、2018年度より、新たに不登校児童生徒の親の会(ここあんの会)も毎月1回開催されました。



協働事業



一般企業や行政・教育機関、病院等へ講師派遣を行い、2018年度も様々な研修会を行いました。毎回ご好評をいただき、毎年ご依頼くださる機関も増えております。

臨床心理学の知見を活用した地域社会の貢献を当法人の設立理念として掲げていますが、会員のみなさまのご協力から、地域の多くの企業、病院、学校とのつながりがさらに広がっています。

研修事業

2018年度は、「こだちロールシャッハ研修会」「事例で学ぶテストバッテリー研修会」を継続型の研修会として実施したほか、昨年度より開催しております「体験的心理療法ワークショップ」「WISC・WAIS研修会」も引き続き多くの方からご好評をいただきました。

2019年度は新たに、前ページでもご紹介したいろいろな研修会を企画しております。研修会に関する感想やご意見をぜひお寄せください。

特別企画

第12回定時総会特別企画として、田嶋誠一先生(当法人顧問・九州大学名誉教授)をお迎えし、特別講演会を開催しました。「現実介入しつつ心に関わる心理臨床～「体験の支援」という視点から～」というテーマでご講演いただき、長年子どもの安心・安全なそだちをテーマとして掲げてこられた先生のお話を伺う貴重な機会となりました。

セラピストフォーカシング 研修会のご報告

2019年2月23日、24日と2日間にわたり、九州大学西新プラザ中会議室において、講師に吉良安之先生（九州大学キャンパスライフ・健康支援センター 教授）、アシスタント講師に稲員修平先生（川谷医院）、中島薫先生（カウンセリングスペース ひなた猫）をお招きしてセラピストフォーカシング・ワークショップを開催いたしました。

吉良先生から、セラピストフォーカシングは対人援助者自身の心や感情を主役として大切に扱いゆっくりと味わう時間であることや、自分の感じていることを一つずつ整理し、体験的距離を置くことなど、セラピストフォーカシングの意義についてお話いただきました。



初めてフォーカシングに触れる方も多く参加されましたが、講師の先生方の温かな雰囲気の中で、参加者の方もワークを交え、自身の体験や感情をゆったりと振り返り、整理する時間になっていたようでした。また、吉良先生自らセラピストフォーカシングを実演してくださり、大変貴重な体験となりました。

参加者の皆様からは、「フォーカシングが温かなものだと感じられた」「ゆったりとした心持でこれからの仕事に取り組みそう」「フォーカサー体験によって誰かに大切にされる実感を持つことができた」などの声が寄せられ、満足度の高いワークショップとなりました。

今年度も、2019年11月23日(土・祝)～24日(日)と2日にわたり吉良安之先生を講師にセラピストフォーカシング・ワークショップを開催いたします。フォーカシングを日ごろから実践している方も、フォーカシング初心者の方のご参加もお待ちしております。

新事業のお知らせ

心理検査委託事業を始めます

この度、当法人では大阪コミュニティ財団の助成を受け、**心理検査委託事業**を行うこととなりました。心理検査によるアセスメントが必要だが病院や公的機関では実施できない、病院や公的機関での実施は患者様を待たせてしまう等でお困りの場合、当法人に心理検査を委託していただくシステムです。病院や公的機関から患者様をご紹介いただき、心理検査実施、所見作成、必要に応じてフィードバック面接を実施させていただくことが可能です。どうぞご利用いただけますようお願い申し上げます。ご利用をご検討いただけるようでしたら、ぜひお問い合わせください。



委託の際の条件：

- ・ご依頼いただく機関が当法人の賛助会員（年会費：10,000円）であること
- ・依頼書にご記入いただくこと

日時：月曜日から土曜日（10:00-18:30）のうち90分程度

場所：九州大学こころとそだちの相談室

検査内容：WISC-III、WISC-IV、WAIS-III

利用者のご負担： ※利用者は当法人にて料金をお支払いいただく必要があります。

- ・検査料金：1回の検査につき5,000円（所見作成料込み）
- ・結果フィードバック料金：別途5,000円（フィードバックを当法人で実施する場合）

30年前に出版された、臨床家必読の名著が待望の復刊



壺イメージ療法
 —その生いたちと事例研究
 創元アーカイブス
 田島誠一 (著, 編集)
 成瀬悟策 (監修)

刊行年月日: 2019/06/17
 ISBN: 978-4-422-11701-0
 判型: A 5判 210mm × 148mm
 造本: 並製
 頁数: 408頁

この度、当法人の名誉顧問でもいらっしゃる田島誠一先生の著書が復刊になりました。

壺イメージ療法とは「壺」をイメージの中に浮かべ、そこに入り込むことを治療者とともに協力しつつ行なうイメージ療法の一つであり、本書は、著名な先生方による事例検討の記録をもとに編まれました。

「復刊にあたって—壺イメージ両方のその後の展開」として新たな内容も掲載されております。ぜひお手にとってご覧ください。

司会者:成瀬悟策、発表者:伊藤研一・栗山一八・富永良喜・松木繁、
 討論者:倉戸ヨシヤ、栗山一八、中井久夫、増井武士、村瀬孝雄 (敬称略)

入会のご案内

こだちは今年で12年目を迎えます。地域に定着した心理臨床サービスを継続するには、収支の安定が求められます。NPO法人の会員となって、私たちの活動を支えていただけると幸いです。会員になっていただける方はぜひ、こだちまでご連絡ください。なお、会費は1年毎の更新制です。よろしくお願いたします。

- 会員(ひと口5,000円)：臨床心理士・公認心理師(予定)・医師
 その他対人援助に関わる方(定款参照)
- 学生会員(ひと口1,000円)：学部生・大学院修士課程
- 賛助会員(個人：ひと口5,000円・団体：ひと口10,000円)



ご支援のお願い

当NPO法人では、会員以外の方からも、ご寄付をお待ちしております。関心や興味を持たれた方は、ぜひご連絡ください。

交通のご案内



〒814-0002
 福岡市早良区西新2-16-23
 九州大学西新プラザ 産学交流棟
 TEL / 092-832-1345
 FAX / 092-832-1346

地下鉄でお越しの方
 福岡市営地下鉄空港線 西新駅下車後
 7番出口より徒歩にて約10分

バスでお越しの方
 西鉄バス「西新一丁目」または「今川橋」下車後
 徒歩にて約10分

